

「タンブル・ウィード」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

アメリカ映画---特に西部劇を見ていると、荒野や、ひとけのないうらぶれた街角に、枯草のかたまりのような丸い玉がころがってくるシーンをよく目にする。ホラーっぽい映画の廃村なんかにも登場する。あれは一体何者だろうか？



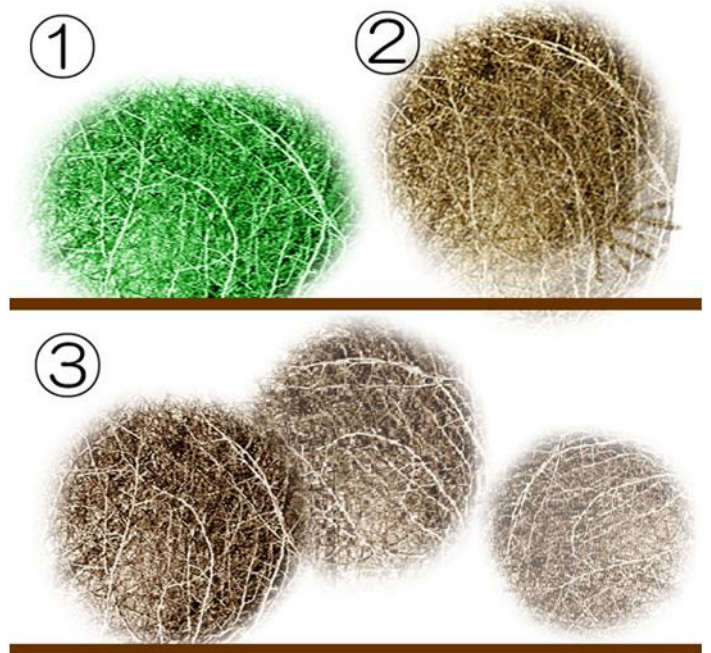
映画「ポルターガイスト」の最初のシーン。主人公一家が、廃村同然になった住宅地に帰り着く場面。右の歩道から、丸い枯草のかたまりがころがってくる。

私はあの草玉を、牧草や麦わらが集まって、風で丸くころがってくるもの・・・とずっと思っていた。しかしちょっとちがうようである。あれは、「タンブル・ウィード」(Tumble weed) と呼ばれ、実は一つの植物が、根こそぎ転がっているものなのである。



「廃村をころがるタンブル・ウィード」(左端)

“Tumble”は「転がる・転倒する」「weed」は「雑草」といった意味である。文字通り「回転草」である。もちろん“Tumble weed”はあだ名であって、正式には、ヒユ科の「オカヒジキ」の仲間である。一体なぜ、わざわざ荒野を回転しながら、移動する必要があるのだろうか？



「タンブル・ウィードが転がるまでの過程」

Salsola komarovi の場合 (作図 C.Tanaka)

- ①乾燥した土地に根を下し、一塊の緑の玉のように成長する。灌木のように見えるが、実は草本である。
- ②枯れると、根こそぎ地面を離れる。根元で茎が折れて遊離することが多いらしい。
- ③乾燥して軽いので、風によって回転しながら移動。

生物のさまざまな「ふるまい」には、それぞれ必ず理由がある。タンブル・ウィードが転がって移動することにも、ちゃんと意味がある。転がりながら、種子を拡散しているのだ。植物はさまざまな種子の拡散方法を考案して、実践している。しかし、こんな奇想天外な方法は、他には例がないだろう。3学期に予定している、種子の学習の発展で扱ってみたいと思う。実物は日本では入手困難だが、どうしても探したい。